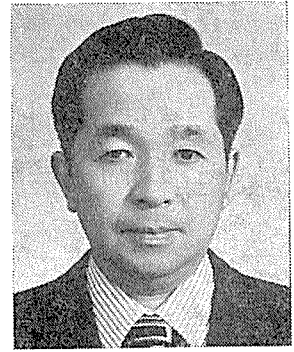


建築教育に PC 技術の啓蒙を

小 倉 弘 一 郎*



まず、創立 30 年を迎えたプレストレストコンクリート技術協会に祝意を表し、これまでにお育ていただいた協会、業会の皆様から心から感謝したいと思います。

私は、昭和 58 年 5 月から 2 か年間、会長職を穢させていただきましたが、土木、建築の学識経験者が交替で会長を務めるという鉄則に従い、全く PC 関係の論文を發表したこともない小生が、多少は RC の研究者であり、たまたま年輩があまり若からずということで、その前の 2 年間の副会長という研修期間も含めて、務めたわけでした。

その間、少しでも PC のことについて勉強をと努力はしたものの、自ら PC を手掛けたという経験がなく、結局、空振りに終わったようです。自分の努力不足のことはさておき、建築関係では、PC 関係の研究者、技術者が非常に少ないことを痛感します。これは建築における PC 技術の教育の不足に大いに起因するものと思います。

もともと RC も PC もそうですが、コンクリートには確立された破壊理論がなく、実験的にその破壊を体験して、コンクリートというものが理解されているようです。コンクリートがせん断破壊に弱いなどというのは、鉄、骨の研究者などにはなかなか納得がゆかないものようです。

そこで RC 研究者にも容易に PC が扱えるような小容量で軽量、簡易な PC 装置と材料を開発し、これを RC 研究者に提供していただきたい。RC 研究者は自分の研究テーマや卒論のテーマに PC を組み込んで見ようとするに違いありません。これはとくに PC 業者の方をお願いしたい。

また協会には、PC の教育資料の制作をお願いしたい。PC の原理、利用法、設計法、RC に対するメリット、PC の歴史、今日の PC の現状などを含めたかなりの量のスライドまたはビデオと付属テキストを制作し、RC 教育者に無償で提供し、RC 学の講義の中に、少なくとも数時間は PC の講義が含まれるようにしたいものです。

こんなことでも、数年もすれば、建築方面にかなりの数の PC の応援者が増えるだろうと思います。

建築の PC は、明らかに西高東低の傾向にあるので、関西方面の方には何をいまさらと思われるかも知れませんが、東の方では切実な気持ちです。

小生の在職中に提案すれば良かったのにと悔やまれますが、おそまきながら提案したいと思います。

協会のますますのご発展を祈ります。

* 明治大学教授
(本協会第十四代会長)